

《新宗連第34期役員・評議員等》

新宗連役職		氏 名		教 団 役 職			
名 譽 会 長	深 田 充 啓	円 応	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
顧 問	庭 野 日 鑛	立 正 俊 成	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	新 井 三 知	救 世 真	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	保 積 秀 胤	大 和 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	岡 田 光 央	崇 教 眞	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
参 与	嘉 納 良 樹	日 月 神 一	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	鉢 呂 神 龍	天 恩 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	佐 々 木 堯 章	崇 教 眞	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
理 事 長	宮 本 惠 司	妙 智 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
常 務 理 事	石 倉 寿 一	大 慧 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	庭 野 光 道	立 正 俊 成	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	力 久 光 臣	善 隣 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	田 澤 清 喜	松 緑 神 道	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	本 山 一 博	玉 光 神 社	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
理 事	新 井 光 興	救 世 真	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	田 中 庸 仁	真 生 會	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	飯 島 法 道	思 親 會	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	岡 野 英 夫	解 脫 會	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	保 積 志 胤	大 和 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	北 浦 幸 代	祖 神 道 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	藤 原 裕 康	妙 道 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	小 坂 匡 弥	円 応 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	熊 野 隆 規	立 正 俊 成	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	眞 塩 陽 一 郎	七 曜 會	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	保 積 敬 子	大 和 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	仙 波 達 治	崇 教 眞	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	宮 本 泰 克	妙 智 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
監 事	國 富 敬 二	立 正 俊 成	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	江 口 陽 一	大 法 輪 光 妙	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
評 議 員	石 川 靖 夫	靈 波 之 光	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	加 納 理 孝	加 納 太 靈	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	左 藤 滋 光	澄 禪 律 院	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	平 松 千 明	大 和 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	和 田 恵 久 巳	立 正 俊 成	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	鷹 取 義 博	大 慧 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	山 川 喜 久 子	円 応 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	村 木 浩 治	解 脫 會	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	鈴 村 裕 太郎	妙 智 會 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	鉢 呂 金 太 郎	天 恩 教	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	杉 浦 妙 周	福 聚 の 会	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	木 島 正 孝	修 養 団 捧 誠	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主
同	梅 村 佳 甲	崇 教 眞	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主	教 會 教 主



写真左から常務理事の本山氏、力久氏、理事の岡野氏(理事長特別補佐)、常務理事の石倉氏、宮本理事長、常務理事の田澤氏、庭野氏

また、恩師を亡くしたうえに、「理事長就任時に宮本先生から『私が支えますから』と声をかけていただいたことを思い出し、私も常務理事として支えていきたいと決意しました」と語り、「これからも皆さまとともに、新宗連が少しでも

【宮本恵司氏略歴】 1956（昭和31）年、東京都渋谷区生まれ。81（昭和56）年に妙智會教団へ入局し、2002（平成14）年に理事長に。13（平成25）年に法嗣となり、25（令和7）年3月に會長に就任した。新宗連では1989（平成元）年に理事に就任して以来、常任理事、副理事長、常務理事を歴任。企画、政治、会計の各委員長を務めた。



理事会後に行われた学習会

報告事項では、各
報告事項では、各
委員会・機関が活動
状況を報告したほ
外に、7日に仙台市で
開催する令和8年度
の国総会で、第38回
教団人ゼミナールを実
施する日程案などを
承認した。

併せて、10月
7日に仙台市で
開催する令和8年度
の国総会で、第38回
教団人ゼミナールを実
施する日程案などを
承認した。

理事会後の学習会では、
玉光神社宗教心理学研究所
所長の武藤亮飛氏が「新宗
教に企業経営論は役に立つ
のか」「玉光神社における
挑戦と失敗事例例」に關し
て講演した。

武藤氏は新宗連が1966
年（昭和36）年に始めた教
団人ゼミナールが「信仰を基
盤とした教団経営講座」

までの謝意を述べた。

学習会

と経営―

り方を探る

開会にあたり、深田充啓名誉会長がいさづを述べた。審議事項では令和7年度事業報告書案ならびに令和7年度決算報告書案につ

か、新日本宗教青年会連盟（新宗連青会）の委員長交代について報告。宮本泰克前委員長と岡野孝行新委員長がそれぞれあいさつした。続いて、岡野委員長は米國調査団やユースフォーラム2026について報告した。

この後、大滝晃史事務局局長が日本宗教連盟創立80周年記念式典や不活動宗教法

6月30日、宮本恵司
 長のもと、新卒連第34
 タートしました。
 私も新に入役目を
 けました。いろいろな
 できごと、25年前に当
 主・田澤豊弘(た
 なたいた)長を必
 す思い出します。
 「役受を受けて
 いたなかでつかは自
 めな(な)」
 「もしお断りするのなら
 の役受を通してできる学
 縁・機会を自身の成
 なかにすべてすること
 をすると認識なきに
 「今はいいので難し
 うのであれば、受けな
 意去り、成し遂げられ
 「お役受を受けた時に

滔々抄

分が自分からいなくて、先生方に育ててもらいはない」

新宗連青年会副委員長就任に際し、教団職員になって間もない私の気持ちをすべて見通した教導でした。未経験であるが故に、単に仕事が増えるのではないかという漠然とした不安でいっぱいであったことを昨日のように覚えて

お役目をいただく」とは

新宗連の先生方に育ててもらっています。結論として、役をお受けする選択肢をとりました。お役目を通して、他教団、他業界の方々と出会いと学びの場を数多く経験することができました。

お受けしてよかったと思う気持ちとともに、大切な気づきがありました。

就任のお声をかけていただいたのはどのような理由か。

信者さんの求道心、教えの主の導き、教団の歩みがあったからこそ、就任依頼であったはずです。しかし、あたかも自身の能力であるかのような錯覚を覚え、迷っていた自分がありました。信者さんと共に神様を求めて歩みを進める、その心と具体的行動が、結果として、宗教協力のあることに改めて気づいた25年前でした。

この経験と思い出しながら、宮本新理事長を中心に、新宗連加盟教団の皆様の神仏への帰依心をもち、すべての生命が尊重し合える平和な世界実現のため、教団の多様性を活かして、世の中のお役に立てよう善進していく誓いを立てた6月30日でした。

(田澤清貴・松緑神道大和山教主)

「お役目をいただく」とは

緊急出版 カトリック大阪教区神父 **西山俊彦**

**平和憲法が平和への道、
改憲は戦争への道**

「わたしたちが核戦争の加害者とならないために――」
世が平和な世であつてほしい。時すでに遅しと後悔しないためにも
平和憲法の真価を見直す。養蚕まで捨てるわけにはいかない。

●1400円＋税 四六判並製
248頁 ISBN 978-4-286-19691-6

文芸社
〒160-0072 東京都新宿区新宿1-10-1
☎03-5369-2299 FAX.03-5369-3066
<https://www.bungeishya.co.jp>
書籍のご注文はお近くの書店またはブックサービス☎0120-259-9625、ネット書店でも

ハーベスト社

**東日本大震災後の
宗教とコミュニティ**

星野英紀 戸山達也 編 本体価格2,000円＋税
東日本大震災後、福島県と栃木県・岩手県地域のコミュニティの再建における宗教の役割、避難場所としての宗教施設、宗教教育や宗教者の動向などを解説する。

療術から宗教へ

世界宗教史の教団組織論的研究
隈元正樹著 本体価格3,000円＋税

**合掌ができない
子どもたち**

浄土真宗本願寺派福賢寺住職
三上章道

「一願寺新報」で二十年以上に亘っての編集長としてきた三上先生が、合掌できない子どもたちが、なぜ合掌できないのかを、戦後の日本社会を背景に探求する。社会が変化した中で、子どもたちの心を癒すこと、その原因が宗教を嫌い、その原因が宗教を解き明かすこと、そして現代日本人の心の問題にとどく。

-8469 京都市伏見区中島町原田町28-106
075-6117285 FAX 075-6103752
www.hakubutsusha.org 価格相談

陀羅尼を読む

最新刊
小野卓也・
翻訳や語義の詮索が避けられてきた陀羅尼について、意味を理解することで仏の智慧に近づけるとして、その読み方や意味などを詳解する。
◎四六判／376頁 ◎定価3960円(税込)

〒166-8535 東京都杉並区和田2-7-1
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
<https://books.kosei-shuppan.co.jp/>

●緑風出版●

住民秘滅免の活用と改革

【東京区市は非情、大阪・横浜はイイね】

太田哲一 著

1980年

●失業したり退職したりして収入・所得が激減したのに、住民税は高額のままなんでどうなるの？ 私ええない！

こんな時どうする？　あまり知られていない「住民税の減免」を利用しよう。その気になれば制度改革も可能だ

【現在Amazonへは出荷停止中です】
〒113-0033 文京区本郷2-17-5/税込
☎03(3812)9420 www.ryokufu.com/

ろ　　し　　お　　か
う　　ゆ　　う　　か
老　　春　　謳　　歌
長生きの秘訣

御木徳近著 パーフェクトリパティ―教団第二代教祖が、宗教家

〒100-0047東京都渋谷区神山町16-1
TEL03-3469-1153 FAX03-3465-6867

社
宗教法人の
税務調査対応ハンドブック
〔宗教法人税制と法例の解説を含めて〕
人

石村耕治 編
A5判 3780円

〒150-8501 東京都千代田区神田1-6-6
7946 FAX03(3518)0299
skattsei.co.jp 〈価格税込〉

解脫會伝記編纂委員會編
新版 解脫金剛云 全3卷

A5判 上製函装 定価各巻30000円(税込み)
 相善導、人心救済への道筋を説かれた解脱会会祖・解脱金剛(岡

〒101-00
☎03(627
http://www

里書に「自らその内に深い帰依心を培い、世のため人のために生きるための学びの土台となる書。第1巻人生を描く、事業の失敗、大成を経て宗教の世界に心救済の道一筋に生ずる。第2巻昭和4年に立役して以来、人びと救済の道一筋に生ずる。教の土台を完成するまでの事蹟を辿る。第3巻戦時下の厳しき時代の中で縦横無尽に政経を駆け回り、戦後復興に尽くす事蹟を記す。」と記す。

に考えを託き、赤湯活動を開始し、遠征されるまでの歩みを記す。

解 脱
〒160-0007 東京都新宿区荒
Tel 03-3353-2191(代表) Fax 03-

戦没者うら盆供養

非戦と平和を祈念 妙智會教団

妙智會教団(宮本恵司會長)は、7月14日午後1時から、東京都千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で「戦没者うら盆供養」を厳修した。同供養は墓苑創建の翌年である1960(昭和35)年から毎年続けられており、戦没者を慰霊するとともに、絶対非戦と世界平和の実現を祈る法要として営まれていく。



戦没者うら盆供養であいさつに立つ宮本會長

角笠正面と増設納骨室前には、ほおずきや季節の花々、供物が供えられ、青年部員16人による献灯・献華・献供の儀が厳かに執り行われた。

宮本恵司會長は「この祈願の中で、宮本ミツ會主が「戦没者のご成仏なす」として、平和はないのです」と教示し、宮本丈晴大導師が「正しい戦争はない。真の平和は心の平和の上に築かれる」と説いてきたことを紹介。本年新たに193柱が墓苑に納められ、創建以来の奉安数が37万1167柱となったことにも触れ、一人でも多くの命をお導きし、世界平和の実現に努めることを誓った。

あいさつに立った宮本會長は、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢など世界各地で紛争が続く現状に触れ、「生活に追われ、社会に追われ、私どもはつい平和に対する願い、祈りというものに薄れてしまふ。今日のようなこの尊い式典の中で、もう一度平和に対する思いを強め、それが大事なことだと思ひます」と述べた。

その上で、「妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十」に説かれる常不輕菩薩の修行を紹介。「常不輕菩薩さまは、石を投げたとしても、石を投げ返すことはならなかった。相手が暴力をふるっても、ご自分は合掌して、そのまま受け止めた」と説明し、「離れるということとは逃げることはありません。その場において争いが絶えなければ離れることも大事だということを我々は常不輕菩薩さまから教わっているのだ」と述べた。

大和之宮 安食克己代表役員(代表者)は7月12日午前10時から、山形県山形市の本部で「第37回光まつり」を斎行した。

祭儀では、信徒会館3階の広間に阿弥陀如来、釈迦如来、寿光観世音菩薩を祀り、安食克己安食司長が導師を務めた。参列者とともに読経し、厳かな雰囲気の中で先祖供養の祈りを込めた。

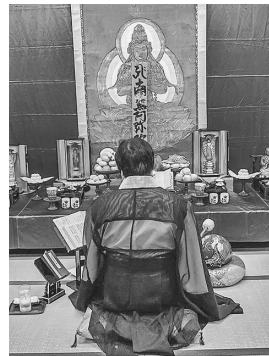
祭儀後のあいさつで安食克己代表は「先祖供養、お導き。この二つの修行をすることによって、我々は常不輕菩薩さまのような心になつていくことができる」とし、日々の実践を促した。

続いてあいさつした千鳥ヶ淵戦没者墓苑事務局長の松本秀次郎理事長は、妙智會教団の慰霊供養に謝意を表し、若い世代への理解促進に期待を寄せた。

なほ、当日午前には妙智會教団本部(東京都渋谷区)で「本部うら盆供養」が営まれ、先祖供養と世界平和への誓いを新たにされた。

第37回光まつりを斎行

先祖への感謝、次世代へ 大和之宮



安食司長が導師を務め、参列者とともに読経

祭司長は、「本年も信徒各家庭のご先祖を供養させていただいた。先祖供養とは、『あなたたちのことは忘れません。あなたたちが頑張ってくれたからこそ、私たちは今ここにいる』という感謝の気持ちを込めて行うもの。その姿が、次の世代へと家をつないでいくことになる」と述べ、先祖を敬い、命のつながりを大切にすることの重要性を説いた。

最後に、参列者一人ひとりが焼香して先祖への感謝を捧げ、希望者には「守護仏」が授けられた。

加納太霊教院

開基117周年・教祖祭典

先代院長の願い胸に、10月から「地霊祭」



信徒総会で、「地霊祭」斎行を発表する加納院長

玉串を奉って教祖への感謝と祈りを捧げた。

祭典後の信徒総会では、加納院長が今年10月から秋の例祭として「地霊祭」を斎行すると発表された。これは、先代院長・加納白龍氏の誕生(1865年6月15日)を祝うとともに、教を継承した歴代院長の遺徳をたえ、その恩恵に感謝する時間と場所を提供したい」と願っていた遺志を受け継ぐもので、25年祭に合わせて開かれた信徒総会で実施が承認された。今年からは4月、6月、10月の3回、例祭を斎行することとなる。

また、3年後に迎える開基120周年に向けた取り組みとして、建立から30年が経過し老朽化していた高さ9メートルの大観4対を、篤信者の奉納により新調したことも報告した。

最後に、網走郡美幌町の篤信者(90)が「神様のお願いで、更新も済み、21陰で免許更新も済み、21歳を4時間かけて運転してきました。次のお祭りでも皆様に会えるのを楽しみにしています」と笑顔で語ると、会場は温かな拍手に包まれた。

白龍宮 建立記念祭

開祖の志を継ぎ、皆共に 七曜会



眞塩教主を導師に「般若心経」を誦読する参列者

七曜会(本部・東京都渋谷区、眞塩陽一郎教主)は6月20日午前11時半、東京都中野区の白龍宮昇宮で建立記念祭を執り行った。

白龍宮昇宮は、開祖・溝上恵照師が1951(昭和26)年6月、中野区城山町(当時)に現れた白蛇を国土の神として祀ったこと由来する。同宮には日月火水木土の「七曜の心霊」も祀られており、世界平和と人類の幸福、国家の安寧を祈る場として、今日まで毎年建立記念祭が営まれていく。

立記念祭が営まれていく。現在の社殿は1993(平成5)年に建て替えられた。

この後、5月の「母の日」にちなみ、教団の「母」と慕われる保積教祖に信徒から感謝の花束が贈られて、続く直会では、参列者同士が親睦を深め、和やかなひとときを過ごした。

春の大祭 各地で挙

100年に感謝、200年に誓いを 解脱会

解脱会(岡野英祥法主)は5月10日午前11時から、埼玉県北本市の御霊地で「第188回春季大祭」を挙行した。

開会に先立ち、東京教区を中心とした鼓笛隊が御霊地で演奏パレードを実施。続いて、国旗・本部旗、青年部旗、全国支部旗が入場した。

開式の辞に続き、国歌及び「大祭の歌」の斉唱、礼拝行事が行われた。解脱金剛尊者(岡野聖憲会祖)の

「み声」(録音)が流れると、会場は厳かな雰囲気になった。

その上で、解脱金剛尊者の「自分磨き、神様の心に近づくこと」を心掛けていると語り、神様の心を磨き、誠実に生きようとする心も大切だと語り、解脱金剛尊者の「み声」(録音)が流れると、会場は厳かな雰囲気になった。

この後、北本市の三宮幸雄市長と新日本宗教団体連合会(新宗連)の石倉孝一理事長(当時)が祝辞を述べた。石倉理事長は、「数多くの諸霊への供養や神仏への感謝が、家庭、社会、国家の安寧に繋がると語り、一方、世界各地の戦争や紛争により貴い命が犠牲になっている現状を憂慮し、『対話と信頼に根ざした平和が築かれることを祈り続けてまいりましょう』と呼びかけた。

大和教(保積敬子教祖)は5月10日午前11時から、宮城県塩釜市の大和教本願で「令和8年度春季例大祭」を斎行した。同大祭は自然災害からの国土復興を祈念する祭りでもある。

開式に先立ち、保積敬子教祖が、東北大学教授の川島隆太氏による、スマートフォンやタブレットなどデジタル端末の過度な使用が

子どもの発達に及ぼす影響を解説した論文を紹介。参列した政治家や保護者に関心を呼びかけた。

大祭は新宗連の「祈りの心」を磨き、神様の心に近づくこと、心を磨き、誠実に生きようとする心も大切だと語り、解脱金剛尊者の「み声」(録音)が流れると、会場は厳かな雰囲気になった。

この後、力久教主が「青白又サの散華」を行い、場内を一周し、「御慈光照射」を行った。「捨身誓願の松」奉奠が行われ、礼拝、祭典を終了した。

午前11時から祝賀式が催され、武蔵茂樹理事長が式辞、信徒代表の教会長が念行に徹すると決意を述べた。

力久教主が御親教に立ち、「一重大発表」として、来年迎える御神尊様の御神化(御降臨)50年と立教80年を目標し、御神尊様が修了した五ヶ山御行場(福岡県那珂川市)で50日間の大行を厳修することを発表し、善隣教大誓願「善隣の神様をすび」の施愛徳行の実践で「おとなしく、謙虚な心」を磨き、神様の心に近づくこと、心を磨き、誠実に生きようとする心も大切だと語り、解脱金剛尊者の「み声」(録音)が流れると、会場は厳かな雰囲気になった。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し、参列者一同で祝詞を奏上。続いて修祓、「春季大祭祝詞」奏上、御神酒の下賜、玉串奉奠が行われ、参列者一同が祈りを捧げた。

直会では、世界情勢の安定と平和への願いが語られ、和やかな交流のひとときが続いた。

また、「秋の大祭も元旦祭も、いつも雨や風に当たらないようになっている」と語り、穏やかな天候のもとで祭典を迎えられたことへの感謝を示した。

この後、夏目教主が内陣に座し

大阪市天王寺区東上町八番十四号
電話代表大阪〇六六七七二二三八八番

信教の自由は、なぜ民主主義の土台なのか

伊藤 真(伊藤塾塾長、弁護士)

憲法改正をめぐる議論が続く中、「緊急事態条項」や「信教の自由」「政教分離」など、憲法の根幹に関わるテーマへの関心が高まっている。加盟教団が宗教・教派の違いを超えて協力する新宗連にとって、「信教の自由」は宗教者だけの問題ではなく、多様な価値観が共存する民主主義社会を支える重要な基盤でもある。伊藤塾塾長で弁護士伊藤真氏が、憲法の基本的な考え方をはじめ、現在の憲法改正議論の論点や「信教の自由」「政教分離」が果たす役割について論じる。

そもそも憲法とは何でしょうか。それは国民の権利を列挙した宣言文ではなく、「国家権力を縛るための最高規範」にほかなりません。権力は放置すれば必ず暴走します。だからこそ主権者である国民が「この範囲でしか権力を使ってはならない」と政府に命じたものが、それが憲法です。政府が憲法を守るのは義務であり、憲法に反する法律や政令はそれ自体が無効となります。

二 信教の自由が民主主義の根幹である理由

憲法学者・戸部信喜先生はかつて「信教の自由は人権の花形的存在である」と語りました。今日、「表現の自由」こそが最重要の人権というイメージが強いかもしれませんが、西洋の歴史においては、信教の自由こそが近代的権利の出発点でした。ヨーロッパの宗教戦争という深刻な惨禍を経て、「どの宗教が正しいかを国家が決めるのではなく、個人の内心に委ねる」という原則が確立され、思想・表現・結社の自由、そして民主主義そのものの土台が築かれていったのです。

三 今、何が問われているか

現在の改憲議論では「緊急事態条項」とりわけ国会議員の任期延長が焦点のひとつとなっています。政府は「災害時の政治空白を防ぐため」と説明しますが、参議院の緊急集会という制度はすでに存在します。憲法が定める議員の任期は、国民が政治家に国政を委ねる期限を意味します。議員自身がその期限を延長できることになれば、「もうこの政治家には任せられない」と国民が感じても、その意思を示す機会そのものが奪われるのです。このような改憲は不要であるのみならず有害です。

四 憲法は「未完のプロジェクト」――共に作り続けるもの

哲学者ユルゲン・ハーバーマスは「近代は未完のプロジェクトである」と語りました。自由・民主主義・法の支配という理念は、失敗したのではなく、いまだ完成していない。引き続き実現されるべき課題として

私たちの前に立ちはたかっている、というのが、憲法もたたく同じです。それは制定された瞬間に完成するものではなく、市民の公共的な討議によって絶えず解釈され、更新され、実質化されていく、継続的な民主的学習過程の成果として理解されるべきものです。



新刊紹介

あたらしい「和の生き方」対話から見える私たちへのヒント

小堀 宗実 著

茶道というと、作法や形式を重んじる世界を思い浮かべる人は少なくない。しかし本書が伝える「和」は、単なる礼儀作法でも日本人論でもない。異なる価値観を持つ相手を受け入れ、ともに心地よい場をつ

く姿勢そのものである。遠州茶道宗家十三世家元の小堀宗実氏は、能楽師やクリエーター、脚本家、スポーツ選手、俳優など各界で活躍する人々との対話を通じて、それぞれの人生観や仕事観を丁寧に引き出していく。著者が前面に立つのではなく、聴き役に徹することで、相手の言葉は自然な深みを帯びていく。

江戸文学・文化研究者の田中優子氏との対談では、「思いやりのおもてなしの文化」の源流を江戸時代から語り、日本文化の豊かさを再認識する。日本文学研究者のロバート・キャンベ

イなのだという。また、男性・白人中心主義と見られがちだが、女性や移民の支持者も少なくない。父親不在の問題家庭の多いアメリカで、一定層の女性にも、男性中心の伝統的家族イメージへの憧れがある。移民にはアメリカ人としてのアイデンティティを獲得したいという動機や、成功体験に戻って自己責任論(社会的弱者への冷淡さ)などが背景にあるという。

過去の価値観に基づいて書かれた(あるいは書かれなかった)聖典のメッセージを深く読み込み、時代に即してどのように解釈すべきかが重要との指摘は不埒に響く。朝日新聞出版、新書版240頁、990円)

キリスト教ナショナリズム――不穏なアメリカの変貌
森本あんり・渡辺 靖 著
トランプ大統領と深く関わり、アメリカ合衆国を揺るがしているキリスト教ナショナリズムについて、神学者の森本あんり氏と、現代アメリカ研究者である渡辺靖氏が、対談した内容をまとめた一冊。

キリスト教ナショナリズムとは、政教分離にこだわらず、アメリカ社会をキリスト教に基づいて再構築しようという考え方である。近年の統計で、「信奉者」と「共感者」合わせて総人口の約30%に上るといふ。興味深いことに、この支持者には、仏教徒、イスラム教徒、非宗教的な人々が多く含まれている。ここ

キリスト教ナショナリズムの進展は、長年、弱者救済、社会的平等ばかりが叫ばれてきたと感じ、それにうんざりした人々が、反対側へと振り子を戻そうとした結果と分析されている。宗教右派とも呼ばれる教派である福音派は、キリスト教ナショナリズムと重なる部分が多い。聖書の記述を文字通り受け取る傾向があることから、実際には、都合のいいところだけをとり上げているという。例えば、「男は男と寝てはならない」(旧約聖書レビ記)という記述を根拠にL

本書が描き出す「和」の本質は同調や妥協ではなく、多様性を認め合う知恵にある。相手を変えようとするのではなく、耳を傾ける。その積み重ねが信頼を育み、新たな価値を生み出す。茶道が長い歴史の中で培ってきたこの精神は、分断や対立が深まる現代社会において、人と人とのつながりを結び直すための大切なヒントとなる。

本書はそうした「和」の精神を現代に生きた私たちへ静かに問いかける。一碗の茶を囲むように人と向き合う心の在り方を教えてくれる一冊として、人とのつながりや対話の意味を見つめ直したい人に薦めたい好著だ。(佼成出版社、四六判280頁、2500円)

過去に「公共性」を問う直す「ケアと共感から生まれるもの」
宮本 要太郎 著
孤立や分断が深まる現代社会の中で、宗教は人々の苦悩にどのように向き合うことができるのか。旧統一教会問題以降、宗教に対する敵意の視線が続く一方で、支援やケアの現場で寄り添い続ける宗教者の姿は、必ずしも十分に共有されていないと言え難い。本書は「宗教とは何か」「宗教は社会とどのように関わり得るのか」を問い直した一冊である。著者はホームレス支援などに取り組む「支援のまちネットワーク」共同代表でもあり、支援現場に身を置いてきた研究者。十数年にわたる三つの科研プロジェクトを基盤に、宗教者による寄り添いの実践を掘り下げている。大阪・金ヶ崎での炊き出しや夜回り、葬送支援の調査を通じて、宗教者が行っているのは「救済」ではなく、「共苦」ではないかと考えるようになる。困窮者

を支援対象として見るのではなく、ともに苦しみ、ともに生きようとする営み。その関係性を、著者は「支援ではなく「支縁」と呼ぶ。人と人とのつながりを、もう一度結び直そうとするまなざしが、本書の根底にある。

さらに、日本だけでなく台湾、韓国へと調査対象を広げ、「伴走型支援」という視点を提示。「助けける側/助けられる側」という境界を超え、ともに歩む関係性に着目する。

また、「公共宗教学」という新たな立場も提唱する。宗教の公共性を外から評価のではなく、宗教者、研究者、市民が協働しながら公共を生み出していく過程そのものを対象とする試みだ。ここで語られる「公共性」は、宗教が社会貢献しているかどうかを測る話ではない。苦しむ人のそばに立ち、「ともにいる」ことを通じて、人々との関係をどう再生していくのか。その実践の中にこそ、宗教の意味を見いだそうとしている。

苦しむ人のそばに立ち続けることの意味を、本書は静かに問いかけている。(関西大学出版部、A5判、256頁、2310円)



庭野平和賞 ベンキ・ピヤコ師に贈呈 森林再生と先住民文化継承を評価

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は5月12日午前、東京都港区の国際文化会館で「第43回庭野平和賞贈呈式」を開催した。受賞者はブラジル・アマゾンの先住民アシヤンカ族の精神的指導者で、ヨレンカ・タソ



に取組み、人間と自然との結び付きを育む活動を国際社会へ広げてきたことを評価し、庭野浩士理事長からピヤコ師に賞状、顕彰メダル、賞金2千万円(目録)が贈られた(写真)。

庭野理事長が庭野日鏡名譽会長のあいさつ文を代読。この中で、アマゾンの森林保護は日本人の生活にも直結する課題とした上で、自然は人間が支配する

ものではなく、共に生きる存在とするアシヤンカ族の価値観に、現代社会が学ぶべき教訓があると述べた。また、「八百万の神」や「鎮守の森」に触れ、自然への畏敬と節度ある生活の大切さを説いた。

松本洋平文部科学大臣(中村裕之副大臣代読)と日本宗教連盟の日谷照應理事長が祝辞を述べた。

記念講演でピヤコ師は、

庭野平和財団(庭野浩士理事長)は5月12日午前、東京都港区の国際文化会館で「第43回庭野平和賞贈呈式」を開催した。受賞者はブラジル・アマゾンの先住民アシヤンカ族の精神的指導者で、ヨレンカ・タソ

庭野平和財団
理事長 庭野浩士

公益財団法人
庭野平和財団
理事長 庭野浩士

公益財団法人
世界宗教者平和会議日本委員会
会長 杉谷義純
理事長 戸松義晴

公益財団法人
和光道教団本部
月読之命奉斎
榊の葉でみる神占

新日本宗教団体連合会（新宗連）は今年、結成75周年を迎える。2023（令和5）年の結成70周年記念事業総括式典では、「信教の自由を守ろう」「信仰心を広めよう」「宗教協力を進めよう」「世界の平和に貢献しよう」の四つのスローガンの解説文を見直し、その今日的な意義をあらためて確認した。同年8月には、「信

私は「信じる自由」と同じように、「信じない自由」も大切に考えています。

2023年8月、新宗連は「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージを発表しました。信教の自由は、一般に「自分が信じたい宗教を自由に選び、信仰できる権利」として語られることが多くあります。しかし現実には、信仰を持つ人もいれば、持たない人もいます。それはごく自然なことであり、そのどちらも尊重されるべきものです。

私たちは信仰心の尊さや有り難さを伝える立場にありま

新宗連が「信じない自由」



石倉寿一常務理事（前理事長）

信教の自由と信仰心を未来へ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

新宗連結成80周年へ向け、思いと展望を聞く

新宗連では、その時代に応じて活動の理念を見つめ直し、「信教の自由を守ろう」「信仰心を広めよう」「宗教協力を進めよう」「世界の平和に貢献しよう」の四つのスローガンを掲げてきました。

第一に掲げる「信教の自由を守ろう」は私たちの宗教活動に欠かすことのできない基本であり、基本的人権の根幹をなすものです。また、新宗連が長年掲げてきた宗教協力と世界平和の理念は、あらゆる宗教を互いに尊重し合うという精神に支えられており、これまで積み重ねてきた実践そのものでもあります。

結成65周年（2016年）を機に加わった「信仰心を広めよう」は、創立当初の「国民皆信仰」の精神を現代に受け継ぐものです。「広めよう」という言葉には、一人ひとりが信仰心を日々の暮らしの中で育み、その輪を社会へ広げていくという願いが込められています。



宮本恵司理事長

結成以来の基本理念を継承

新宗連では、その時代に

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

その人自身の選択です。一方で、どんな状況にあっても、信仰を持ち続け、それを心の支えとして歩み続けたい。こうした思いを込めて、新宗連は「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージを発表しました。

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

「信じる自由と信じない自由」と題する理事長メッセージも発表。結成80周年を見据え、新宗連が受け継いできた理念をこれからの時代にどう生かし、次世代へつないでいくのか。4年間にわたり理事長を務めた石倉寿一常務理事（前理事長）と、新たに就任した宮本恵司理事長に、それぞれ

新宗連スローガンとは

「新宗連スローガン」は新宗連結成以来の歴史、時代状況の変化を総合的に検討し「新宗連の理念、目的、活動」を誰にでも分かりやすく、伝えやすくするもの。

新宗連は1965（昭和40）年から、4つの標語「信教の自由・政教分離・宗教協力・国民皆信仰」を掲げ、2001（平成13）年の結成50周年時に「信教の自由を守ろう・宗教協力を進めよう・世界の平和に貢献しよう」の3つに再編。そして結成65周年を迎えた2016（平成28）年10月に開催した全国総会において、新たに「信仰心を広めよう」という新たなスローガンを加えることを発表した。

「信仰心を広めよう」は、1965（昭和40）年から掲げていた4つの標語の一つ「国民皆信仰」に込められた精神を再確認し、新宗連活動に参画する一人ひとりが自らの信仰心を深め、信仰によって救われた喜びや感動をあらためて世に顕していくとの願いが込められている。また、これまで掲げてきた3つのスローガン「信教の自由を守ろう・宗教協力を進めよう・世界の平和に貢献しよう」に、新たに「信仰心を広めよう」を加え、新宗連の理念や目的を、加盟教団の会員、信徒をはじめ、より多くの方々に幅広く伝えていくことを目的としている。

【スローガンの変遷】

年	内 容
1965（昭和40）年	4つの標語「信教の自由・政教分離・宗教協力・国民皆信仰」を制定
2001（平成13）年	3つのスローガンへ再編
2016（平成28）年	「信仰心を広めよう」を新たなスローガンとして追加
2023（令和5）年	スローガン解説文を再定義し、新宗連将来計画として発表



2023年3月9日の結成70周年記念事業総括式典で、刷新したスローガン解説文を発表

2023（令和5）年3月の結成70周年記念事業総括式典では、スローガンの現代的意義の確認と未来への継承として、スローガンの解説文を更新し、新宗連将来計画として発表した。

◆信教の自由を守ろう

- 「信教の自由」は基本的人権の根幹である。
- 「信教の自由」は宗教活動に不可欠である。
- 「信教の自由」はあらゆる宗教を互いに尊重し合うことを意味している。
- 「信教の自由」は信仰を強制されない自由をも含んでいる。
- 「信教の自由」の保障には、政教分離原則が貫かれていなければならない。
- 「信教の自由」と「政教分離」は密接不可分である。
- 「信教の自由」を守るためには敢然として行動する。

◆信仰心を広めよう

- 「信仰心」を広めることは、私たちの使命であるとの信念において共通している。
- 「信仰心」は一人ひとりの「信教の自由」の上

- に成立している。
- 「信仰心」の涵養は一人ひとりの「信教の自由」を尊重することから始まる。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、一人ひとりの心の安寧、苦悩からの救済をはじめ、感謝、歓喜、報恩、利他の人生へと導くことである。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、日々の礼拝等、生活に根差した信仰実践を勤めることにより、倫理や道徳では補えない、心の奥底の浄化と全人的救済へ導くことである。
- 新宗連が志向する「信仰心」の涵養とは、一人ひとりが宗教的感性と人格を磨き、信仰による感謝と感動を広げることを通じて、より良い社会の形成に貢献することである。
- ◆宗教協力を進めよう
- 信教の自由を遵守し、一人ひとりの信仰心を涵養して、世界平和に貢献するためには宗教者あるいは宗教教団相互の理解と協力が不可欠である。
- すべての宗教は、その成り立ち、教義や儀礼、布教や教化の仕方など、形の上において異なるが、その本質、目指すべきことを各自が研鑽するとともに、対話を通じて相互理解を図り、協力、連携を進めていく。
- 宗教協力と対話を促進することにより、宗教が陥りやすい閉鎖性、独断性を抑制するとともに、相互に磨き合い、高め合い、社会に貢献していく。
- 新宗連の掲げる宗教協力は、宗教間の相互理解のための対話促進・靈性交流・相互学習などを含んでいる。
- ◆世界の平和に貢献しよう
- 新宗連の究極目的は、宗教協力を通じて人類福祉と世界平和に貢献することである。
- 新宗連が目指す世界平和への第一義は「信教の自由」精神と「信仰心」の涵養を通して「平和を希求し、祈り、行動する人」を育てることである。
- 世界平和を招来するためには、国内外のあらゆる戦争犠牲者への慰霊と鎮魂が必要不可欠であるとの信念において共通している。
- 世界平和は、地域レベルの平和から国際的レベルの平和を含んでいる。
- 世界平和に貢献するために、生命、人権、環境、軍縮、貧困など、平和構築の条件となる諸問題に目を向け、宗教者としての取り組みを探索する。